

東京医労連第77回定期大会

東京医労連第77回定期大会は、7月10日（日）から7月12日（火）の3日間、新潟県湯沢町にて開催されました。大会には36組合から代議員、傍聴者と役員を合わせて159人が参加し活発な討論が行なわれました。

3月11日の東日本大震災・大津波により東北や関東の広域に未曾有の被害をもたらしました。さらに政治の混迷は、震災からの復興も遅らせ、福島原発事故による放射能汚染の拡大を招き、原発事故収束の明確なめども立たない状況です。一方で、今回の震災は、地域における医療・介護の果たす役割の重要性を浮き彫りしました。

大会を通じて、私たち医療・介護・福祉やそこで働く労働者の果たす役割の重要性も浮き彫りになり、「医師・看護師・介護職員的大幅増員と夜勤改善」の運動の広がりも強調されました。そして、医療産別運動の強化を保障するための組織拡大・強化と運動を支える財政強化も強調されました。

以下、大会参加者の各討論の課題ごとの発言を紹介いたします。



賃金闘争 発言ダイジェスト

組合員の団結と要求への確信を力に、医療・介護・福祉労働者の処遇改善を

日医大・佐藤監督は、付属病 剤師を除く全職種でベアを勝院の建て替えなどで多額の借 ち取った他、パート職員も賃金をつくる一方で、職員に 上げを勝ち取ったことを報 しては定昇の大幅カットなど 告。

人件費削減で乗り切ろうとす 健友会・大塚代議員は、賃金 経営側に対し、賃金改善を 求めてきた経緯を報告。低 水準が民法連法人のなかで最 求めたたかた経緯を報告。低 水準だという認識が職員間 告。ストライキを構えること にも広まるなかで、昨秋以降ベ アの必要性を強調し、職場内 均一三四円のベアを勝ち取 均一三四円のベアを勝ち取

東京健生・住山代議員は、リ ハ職種のみ体系分離の上、賃 上げという春闘回答に対し、 れまでの労使慣行を無視して 職場から団交参加者を組織し 給与体系表の上限を超えた教 職員の定昇を一方的に切り下 7次回答まで引き出し、薬

けてきた経営側に対し、都労 委への救済申し立て、一年に わたるたかたを経営側 にも姿勢の変化が現れ、在職 する全職員の賃金額を体系表 に明記するなど労組側の要求 も盛り込みながら労使合意を 勝ち取ったと発言。

健生会・加藤代議員は、00年 以降ベアなしという状況を踏 まえ、「今年こそはベアを」 経営側を何らかの前進回答示 方向へと追い込んだと発 言。

慶応四谷・小泉代議員は、秋 不利益変更が示され、一般職 職場に徹底して広め、団交に もりハ課の若手中心に多くの 組合員が参加して経営側に大 止、諸手当の廃止などが盛り きた圧力をかけた結果、全職 員がベアを勝ち取ったと発 言。

勤医会・矢尾板代議員は、春 病体・可代代議員は、継続雇 用・待遇の改善に努めた取り 組みが報告 されました。

社保・平和のたかたかでは、日医大 組や健生会支部、勤医会支部 からの報告 されました。

この間の情勢を切り開いてきたのは、 私たちの運動に他なりません。部会・プ ロックの枠を超えた新たな協力が、「増 員・夜勤改善署名」や自治体請願の取り 組みをより力強いものにしていきます。こ の到達を踏まえ、医師・看護師・介護職 員的大幅増員、夜勤改善など働き続けら れる職場づくり、そして「安全・安心の 医療・介護・福祉の実現」をめざし、そ れの地域でさまざまな個人・団体との 対話と交流を進め、私たちの運動をより 広げていきたいと思います。そして、 すべてを組合で引き継ぎ組織拡大に旺盛 に取り組ましましょう。運動・組織の両面 で、首都・東京の医療産別にさらしい 前進を築いていくことを決意し、大会宣 言とします。

2011年7月12日 東京地方医療労働組合連合会第77回定期 大会

白紙回答

井上ひさしの 小説に「吉里吉 里人」という傑 作がある。若手 村が日本政府か ら、「吉里吉里 国」として独立を宣言するとい う内容だ。「吉里吉里国」 は軍隊を持たず、最先端の医 療技術を持ち、100%の食 糧自給率、莫大な埋蔵金、地 熱発電によって運営され、日 本から独立してもやっていけ るようになった。▼井 上ひさしは、今から30年以上 前に、改憲策定の強まりや、 国の減反政策による農村と地 方の疲弊に憤り、「憲法と農 業を大事にする国」を具体的に 書き、国のあり方を提示し た。▼小説では、「吉里吉里 国」は日本政府に弾圧され、 独立の夢は破れた。しかし、 井上ひさしの提起は、TP P、改憲、エネルギー、医療 問題などにみられるようにホ ットな今日の問題である。小 説の舞台だった若手は、大震災 で壊滅し、復興どころか「街」 をつくるかは、焦眉の課題で ある。▼政府の復興計画は、 財界本意の構造改革と庶民増 税を押しつけ、被災地を疲弊 させるものでしかなく、火事 場泥棒の願望に過ぎない。復 興の理念は「吉里吉里国」の ように住民自治と憲法の理念 にそったものではない。30年 前に小説の世界では夢破れた 理想郷が、実現の世界となる よう力を尽くすことこそ、最 大の被災地支援ではなからう か。(か)

大会特集

私たち東京医労連は、2011年7月 10日〜12日までの3日間、新潟県の越後 湯沢において第77回定期大会を開催しま した。「組織拡大3ヶ年計画」の終了を 3ヶ月後に控え、昨年に引き続き増勢の もとで迎えた本大会は、36組合・159 人が参加するもので、今後の運動の前進 に向けた活発な議論を行いました。

昨年夏の参議院選挙での民主党の敗北 とそれによる「ねじれ国会」の出現は、 党略優先・国民不在の政治をさらに 強めています。そうした状況のもと、今 年3月11日に起きた「東日本大震災」は、 地震と津波によって東北・関東の広域に 未曾有の被害をもたらした。さらに震災に よる福島第一原発事故は、放射性物質に よる汚染の拡大を招き、被災地の人々に 大きな不安をもたらしています。さらに 政治の混迷は、被災地の復興を大幅に遅 らせています。今回の震災は、地域にお いて医療・介護が果たすべき役割の重要 性を改めて浮き彫りにしました。被災地 の復興と「安心・安全の医療・介護・福 祉の実現」とは、国民にとって一体の要 求であり、私たちの奮起がこれまで以上 に求められています。

討論では、全体で45本の発言がありま した。賃金闘争では、賃金体系を分離し て職種間に分断をもたらす回答に対し7 次回答まで引き出した民医労東京健生支 部、賃金の低さが人員確保の妨げにもな っていることを強調して全職種でベアを 勝ち取った健友会支部、大幅黒字を出し た経営側に対しストライキを構えながら たたかい、ベア・一時金の上積み勝ち 取った健生会支部、職場に広がっている 「あきらめ」の雰囲気克服し、事前団 交に130人の組合 員を組織した勤医会 支部など、これまで 以上に全職種・全年齢ベアにこだわりの ながら前進を勝ち取った報告が相次ぎまし た。また東京女子医大労組からは、労使 慣行を無視して賃金体系表の上限を超え た教職員の定期昇給額を一方的に引き下 げてきた大学当局に対し、最終的に組合 要求を盛り込みながら労使合意を勝ち取 ったことも報告されました。

看護闘争では、全職員のみなならず地域 の他病院・諸団体にも幅広く協力を呼び かけながら署名に旺盛に取り組んだ健康 文化会支部や南部医療支部、地域共闘を

大会宣言

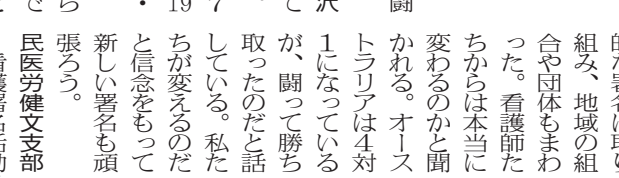
みんなで学んだ取り組みの発言もありま した。

労働条件をめぐっては、労働時間短縮 の要求を掲げ、職場での署名活動やレテ オレーター作成など工夫を凝らしたたか たいを進め、15分の時短を勝ち取ったほく と医療支部、日勤の看護師全員が団交に 参加し、食事介助のためのヘルパー増員 を勝ち取った健友会支部、感染リスクの 高さを訴えて感染手当を勝ち取った結核 予防会支部など、貴重な前進を築いた報 告が出されました。また、東京医大労組

非正規労働者の組合加入を進めた取

看護員・夜勤改善で
働き続けられる職場を
増員・夜勤改善で
たたかいたのパワーを東京から発信しよう

看護員 発言ダイジェスト
増員・夜勤改善で
働き続けられる職場を
増員・夜勤改善で
たたかいたのパワーを東京から発信しよう



看護員の長時間夜勤や労働条件
に関する意見交換会
看護員 発言ダイジェスト

民医労働部医療支部・金子
東京九の基礎病院で
ある大田病院は遠方からも
患者が搬送されてくる。精神

労働条件 発言ダイジェスト
要求に確信を持ち職場・組合
員の力を集め、労働条件改善
と働き続けられる職場を

東京医大 池田代表議員 非正
規労働者の労働条件について
協議交渉を重ねて3年目の今

組織拡大 発言ダイジェスト
問題意識をもって、ねばりづ
よく組織拡大・強化を

ひまわりニオン・亀井代表
人事課制度が2010年度で開
け。現在、和歌での全

早期の震災復興・原発ゼロ、
JAL争議支援、医療・福祉
の充実で国民の安全と安心を

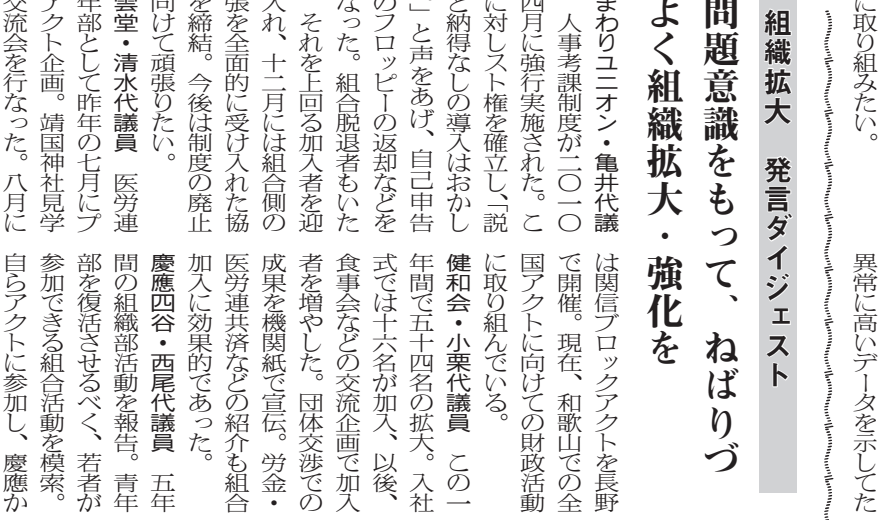
若青年を参加させたいと思
つた。月1〜2回の会議で組
み上げ、実行委員会形式で取

第2号議案 発言ダイジェスト
組合員拡大と登録増などの努
力に基づく財政基盤の強化を

「航空労働者の話を聴く会」
を開催。日本航空は過去最高
の利益、165名の整理乗客

第3号議案 発言ダイジェスト
改定について

憲法を暮らしに活かし、医師・看護師・介護職員的大幅
増員で、安全・安心の医療・福祉・社会保障制度の実現！
組織拡大・強化で、運動と組織の飛躍を勝ち取ろう！



東京医労連
東京ヘルパー労働組合

熱心な討議がなされました。
文書発言一本を含め、
熱心な討議がなされました。

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」
「看護員を要する板橋の会」

- 東京医労連第7回定期大会
メンバー一覧
東京医労連 代表 佐々木一則
副代表 伊藤 潤一
会長 白 晞子

- 2011年秋闘中央委員会
日時：9月29日(木)18:30~
会場：中野：中野サンプラザ
大阪医療労働組合連合会
京都医療労働組合連合会

2008年9月からの組織拡大強化3ヶ年計画は、残すところ3ヶ月となりました。これまで3ヶ年計画を推進する中で、着実に組織拡大を進めています。6月5日には新たに東京ヘルパー労働組合が約100名で結成されました。7月に入りユニオンショップの組合が240名の組合員を新たに迎え入れ、第77回定期大会も昨年に引き続き増勢を迎えることが出来ました。

2011年の春の組織拡大では、組織部が組合パンフ「エール(Yell)」を作成、組織拡大交流集会では新歓・組織拡大の取り組みについて交流しました。今年も東京医労連独自に共済実務者会議を開催し、組合説明会や職場での対話を広げ共済の推進と合わせ、組織拡大につながる取り組みを進めました。

組織拡大強化3ヶ年計画の推進状況と最終盤の取り組みを具体化する特別決議

民医労では2010年大会で10%の拡大目標を決め、5月比の1年間では95名の実増を達成。春の拡大月間中の奮闘で200名以上の拡大を達成しました。全医労東京では、職場の要求を前進させる中で組織拡大した支部、新たに若返った執行部が中心となって新入職員全員が加入した支部など、春の拡大月間に全体で58名の拡大に取り組みを進めました。

春の拡大月間では、新歓や組合説明会を7組合17支部で開催、新入職員への宣伝や新歓グッズを活用して対話を広げました。非正規の組織化については、オルグを行い拡大を進めました。こうした取り組みにより春の拡大月間は、31組合で318名の拡大を達成しました。

組織強化の課題では、連続学習講座、労働学校に取り組みました。春闘討論集会の組織拡大強化を持って、3年目の取り組みの最終盤にむけて各単組が一人でも多くの働く仲間にも組合加入を訴え続けましょう。組合執行部と組合員が丸ごと職場の組織拡大を推進しましょう。次世代の役員育成のため、学習や組合員教育に力をそそぎ労働学校や連続学習講座に各単組から参加しましょう。医労連共済の推進と組織拡大をセツトにして取り組みましょう。

「国民生活第一」をかかげて登場した民主党権は、発足1年で内政でも外交でも行き詰まり「東日本大震災」への対応の不手際も重なって、内閣支持率は低迷し、2011年春の統一地方選挙で敗北しました。

後期高齢者医療制度に代わる新しい医療制度案や介護保険の見直し、地域主権改革では、都道府県単位の医療費の適正化や国保広域化などによる地域格差拡大、住民・自治体の負担増が認められようとしています。厚生労働省がまとめた「国保料・税滞納処分実施状況」によると2010年度に市町村が実施した差し押さえ世帯数は18万2588件、前年度比で件数が11.1%増、差し押さえ額では14.3%増で高い伸びが続いており、高すぎる保険料が払えず医療・介護が受けられない実態が明らかになりました。

また、政府が進めてきた「規制緩和」「新自由主義」路線による自治体リストラ、公立・公的病院の統廃合・縮小、病床削減、医師・看護師・介護職員の人手不足により、必要な医療・介護を提供できないことが震災の支援の中で明らかになりました。その一方で政府は、震災からの復興を口実に、必要な復興財源を消費税増税や医療・社会保障費の抑制などで対応しようとしています。

このような改悪に対して私たちは、「後期高齢者医療制度の即時廃止」「保険料・税の軽減、減免措置の拡大」「窓口負担の軽減」などを求める運動に全力で取り組んでいきます。

2009年10月に新設された介護職員処遇改善交付金は2011年度末までとされており、その後の見直しは決まっています。12年度の介護報酬改定では、診療報酬と合わせてプラス改定が何として必要です。取り組みを大いに広げ運動を強化していきましょう。

「日本国憲法の改正手続きに関する法律」が2010年5月18日に施行されました。衆議院では2009年6月に憲法審査会規程が施行成立し、参議院でも2011年5月18日に本会議で成立しました。2007年5月の国民投票法の成立から4年を経て、憲法改正原案の審議から国民投票の実施までに必要な制度が全て整いました。今後、民主・自民の「二大政党」が中心となり、国会で正式に改憲論議を始める体制が作られ、改憲に向けた動きが具体化されていきます。私たちの求める「憲法改悪反対」の運動を急速に強化することが求められています。

2011年3月11日に起きた「東北地方太平洋沖地震」と大津波、東電福島原発事故は、戦後最大・最悪の災害となりました。「東日本大震災」の広範で甚大な被害のもと、医療や介護が緊急に必要とされ、さらに地域そのものが消滅するもので、長期的な医療・介護の対応も必要となります。

また、政府が進めてきた「規制緩和」「新自由主義」路線による自治体リストラ、公立・公的病院の統廃合・縮小、病床削減、医師・看護師・介護職員の人手不足により、必要な医療・介護を提供できないことが震災の支援の中で明らかになりました。その一方で政府は、震災からの復興を口実に、必要な復興財源を消費税増税や医療・社会保障費の抑制などで対応しようとしています。

今、必要とされているのは、医療・社会保障に大幅な公費の投入を実現し、安全で安心な医療・看護・介護の充実を進め地域医療を拡充すること、医師・看護師・介護職員を大幅増員することです。

職選挙法改正を狙っています。比例定数削減が行なわれると、民意が国政に反映されなくなりま

私たち医療・福祉労働者は、その運動の先頭に立ちます。

以上、決議します。

2011年7月12日
東京地方医療労働組合連合会 第77回定期大会

2011年7月12日
東京地方医療労働組合連合会 第77回定期大会

2011年7月12日
東京地方医療労働組合連合会 第77回定期大会

東京医労連第77期役員名簿 2011年7月13日

役職	氏名	職種	推薦組合	役職	氏名	職種	推薦組合
執行委員長	岡本 学	現 事務	慶應労組四谷支部	執行委員	小栗元啓	新 事務	民医労健和会支部
副執行委員長	大磯栄次	現 事務	民医労南部医療支部	〃	北川秀和	現 事務	民医労健和会支部
〃	續 一美	現 看護師	郵産労東京通信病院支部	〃	米沢 哲	現 介護福祉士	民医労健和会支部
〃	太田敏雄	現 調理師	烏山病院労組	〃	椎野雅広	現 事務	民医労健生会支部
書記長	森田 進	現 専従	本部	〃	菊地愛子	現 看護師	結核予防会労組
書記次長	齋藤康雄	現 専従	本部	〃	小林光男	現 事務	救世軍清瀬労組
〃	西銘秀実	現 事務	民医労健友会支部	〃	木幡祥治	現 看護師	厚生荘病院労組
執行委員	森山紹敏	現 放射線技師	女子医大労組	〃	田中豊明	新 作業療法士	ひまわりユニオン
〃	清水明子	現 看護師	日本医大労組	〃	屋代英克	現 薬剤助手	全医労東京地区
〃	安野浩光	現 作業療法士	桜ヶ丘労組	〃	鶴淵弘之	新 調理師	公立昭和病院労組
〃	高松栄次郎	現 調理師	飛鳥病院職員労組	〃	坂本真起子	現 看護師	日赤医セン第1労組
〃	清水浩介	現 看護師	慈雲堂内科病院労組	〃	青山 光	現 専従	本部
〃	菅谷幸彦	現 事務	民医労東京健生支部	会計監査	佐藤和男	現 P T 助手	日本医大労組
〃	嘉瀬秀治	現 事務	民医労東京勤医会支部	〃	佐藤直史	新 事務	民医労東京はくと医療支部
〃	鈴木和久	現 放射線技師	民医労健文医療支部				

- 大会役員名簿**
- 選挙管理委員長 西村則明(公立昭和病院労組)
 - 救済委員 中部B(東京女子医大) 米山 守
 - 東部B(民医労健和会支部) 小林 充
 - 西部B(民医労健友会支部) 大塚 享
 - 南部B(民医労南葛支部) 日影 一
 - 北部B(日大労組板橋支部) 鳴坂 みよ子
 - 多摩1(井の頭病院) 茨木 千恵子
 - 多摩2(城山関連) 瀬沼 治雄
 - 多摩3(結核予防会) 菅沢 恵子
 - 退任役員 矢野 睦子/山本 彩希/大和久 恵/山野辺 秀雄/佐々木 輝雄/山崎 建

関東医療労働学校

御嶽教室

日時：9月17日(土)午後1時～
19日(月)午後3時(予定)

場所：青梅市 御岳山荘

参加費：22,000円(予定額、2泊3日6食…資料代)

<申し込み先>
東京医労連 教宣部(03-3872-7191)

<申し込み締切>9月9日(金)まで